

ソーシャルネットワークに関する 意識調査：日米大学生の比較

スウィート・リチャード

アドバイザー：関根繁子教授、齋藤ーアボット佳子教授

概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- 研究背景
- 研究方法
- 研究結果
- 結論
- 考察
- 参考文献
- 謝辞

研究の重要性

- 桜美林大学に留学していた時、日本人の友人は私が一度も使用したことが無いソーシャルネットワークを使っていた。
- 使用すればするほど、日本ではSNSの利用時間や投稿された内容の適切さはアメリカと異なると思った。
- この経験から、この研究ではSNSに関する日米の大学生の相違点を調査した。つまり、ソーシャルネットワークの使用頻度や倫理などについてを研究した。

研究質問

1. ソーシャルネットワークは大学生のコミュニケーションの取り方にどの様に影響を及ぼしているのか。
2. ソーシャルネットワークに投稿するにはどのような内容が適切なのか。また、それはなぜか。

研究背景

- ソーシャルネットワークとは
- ソーシャルネットワークの種類
- どうしてソーシャルネットワークを使うか
 - 人間関係の維持
 - モチベーション
- ソーシャルネットワークに関する諸事情
 - 教育
 - マーケティング

ソーシャルネットワークの定義

- ソーシャルネットワーク(略: SNS)とは:

オンラインサービスかサイトを通して人間関係を築いたり、保ったりすることが出来る。

(Merriam-Webster)

SNSの種類

アメリカ

日本



SNSにおける人間関係の維持

- 様々な方法で人間関係を保つことが出来る。
 - コメントに「いいね！」をしたり、ステータスアップデートにコメントを投稿したりすることなどを含んでいる。
 - Ellisonによって進められた研究によるとネットワーク内の平均人数は207名である。一方で、本当の友人は76名とかなり下回っている。
 - SNSを通しての関係維持のコストは低い。
 - 「友達」になるように、一般的にはひとつボタンをクリックするのみである。（「友達になる」や「フォロー」など）。
 - ネットワーク内で人の投稿する場合はその投稿にコメントをしたり、プライベートメッセージを通してその人に連絡を取り易い。
- (Ellison 2014)

SNSにおけるモチベーション

- 内発的なモチベーション(例: エンジョイする為)
 - 自己を満足させる為に、SNSを使い続ける
- 外部からのモチベーション(例: 「友達」の人数)
 - 多数の「友達」が居る場合、または「友達」が急増してくるという期待を持っている場合はSNSの使用頻度が高まる
 - 「友達」の人数と便利さは比例し、増えていく。(Lin, 2011)
- ソーシャルネットの使用モチベーションはそのSNSを使っている全体の人数によるものではなく、むしろ自分のネットワーク内に入っている「友達」の人数によるものである。
(Ellison, Lin)

人間関係を保つことだけではなく、自分のネットワークを広めたがることに刺激されています。

SNS:教育

- 2011年に名古屋文理大学によってSNSを教育環境で使うことについての研究が進められた。
- 「ソーシャルラーニング」に使用された二つのプログラム：
 - ツイッターを通して意見を交換したり、教授にコミュニケーションを取ったりすることが出来た。
 - Libraという教育ツールで教授たちはネット上へ教科書をアップロードしたり、ノートなどで学生と対応したりした。
- その結果、ソーシャルラーニングが(テクノロジーを通して)教育に役に立つと思う人は85%にとかなり上回った。

(長谷川 2013)

学生と先生の間係を上手に築く為に、SNSを使用している。

SNS: ネットいじめ

- Merriam-Websterが「ネットいじめ」を定義した:
 - 「無名の加害者が特定の人物についてネット上へいじめの投稿をすること」
- 三枝(2010)によって進められた研究は、ネットいじめと従来型いじめの頻度を比較した。
 - ネットいじめの頻度が高まっていくおそれがあると言った。
- Barlett(2014)はネットいじめに対して日米大学生の見解を研究した。
 - アメリカ人と日本人はネットいじめに対して肯定的を示したが、攻撃的な態度などを持つアメリカ人の方がネットいじめをする可能性が高いという傾向があると言える。

両方の国ではネットいじめ事件が高まっているといっても、匿名のせいで、ネットいじめの対策を行いにくい。

研究方法

- 被験者

- 63名の大学生

- アメリカ人33名

- 女性14名、男性18名、その他1名

- 日本人30名

- 女性22名、男性8名

- オンラインアンケート

- グーグルフォーム

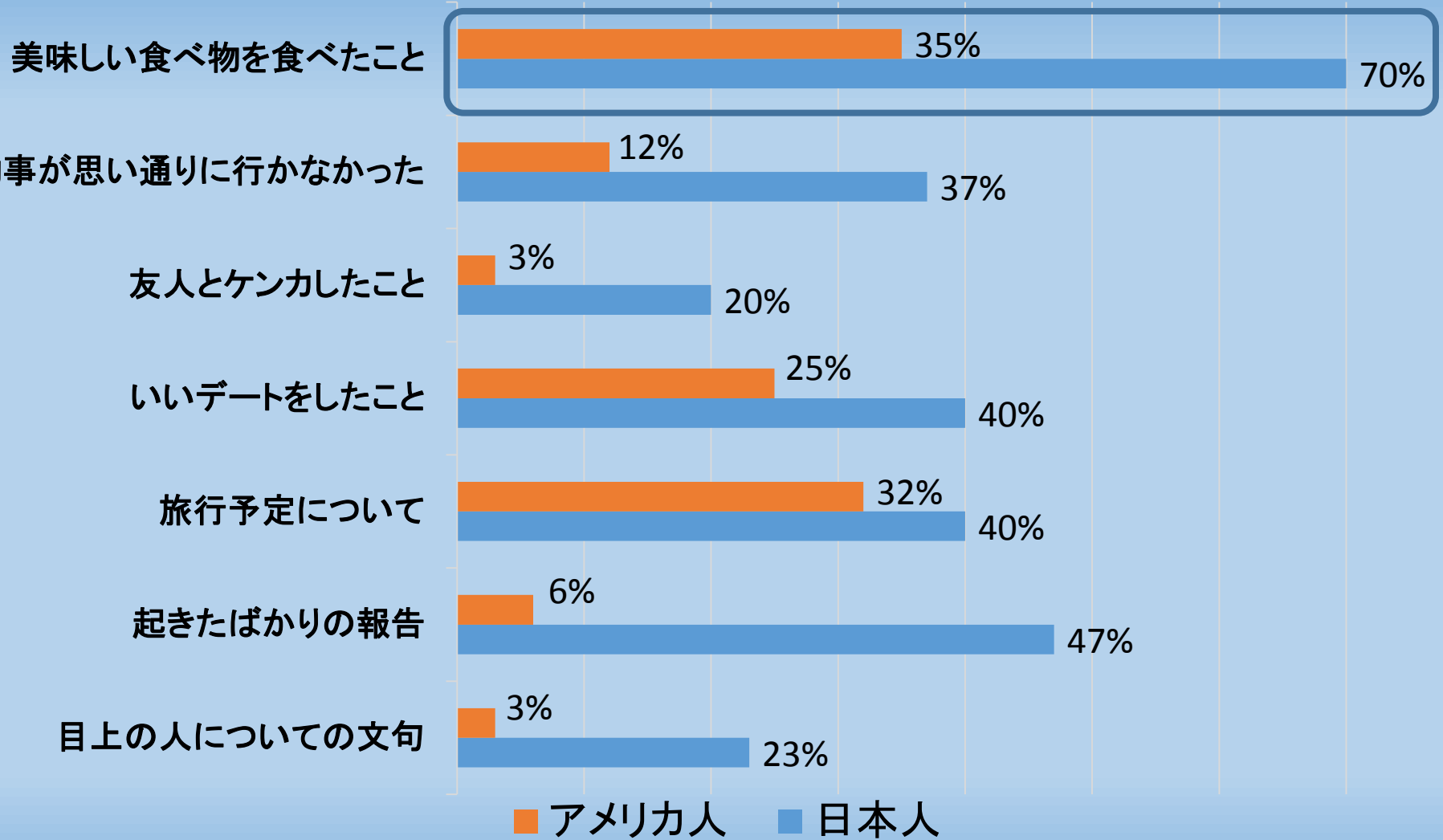
- 英語

- 日本語

研究質問1

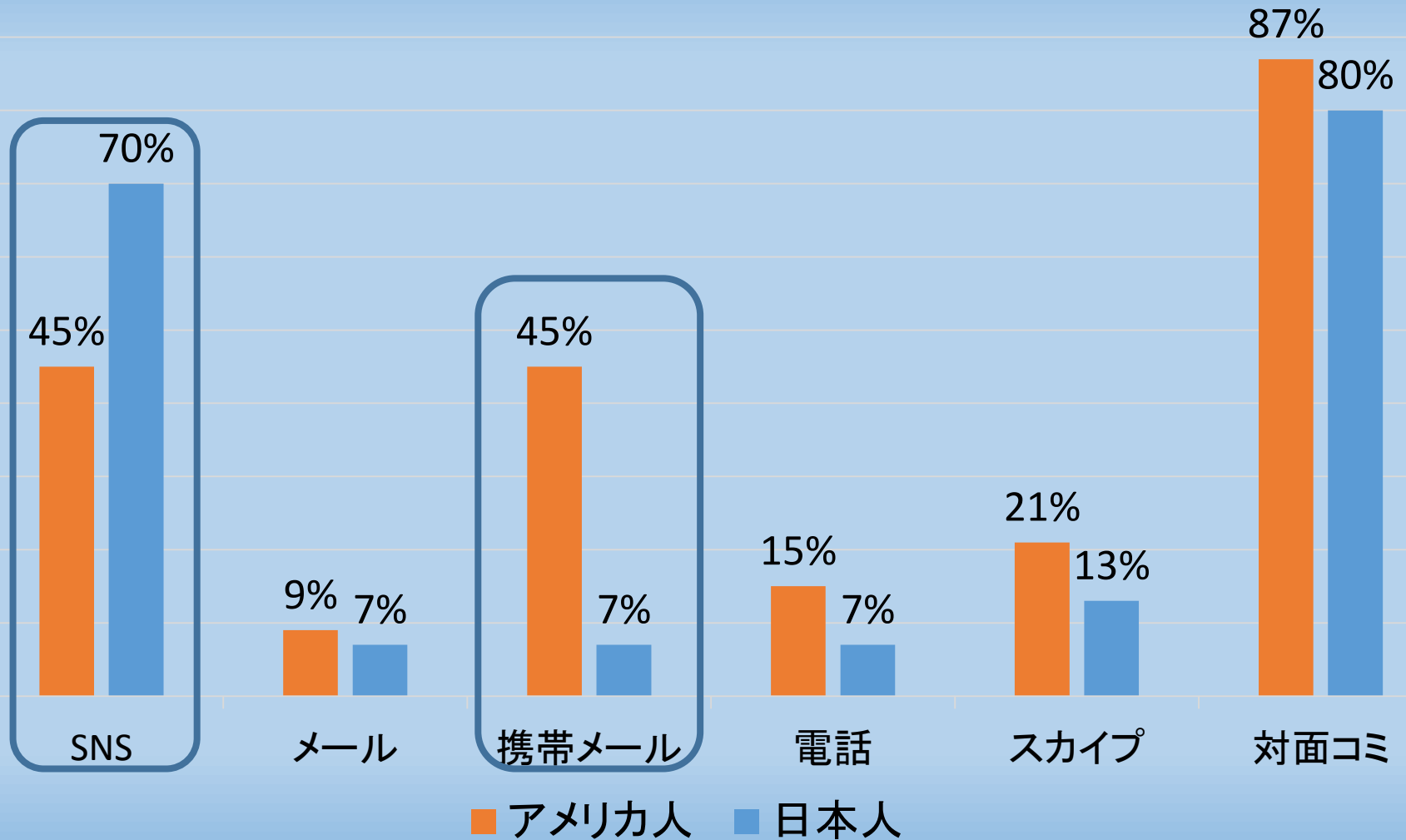
ソーシャルネットワークは大学生のコミュニケーションの取り方にどの様に影響を及ぼしているのか。

家族と友人に伝えたい場合、どの様なコミュニケーション方法を使うのか。(SNS)



「美味しい食べ物を食べたこと」を伝えたいと答えたアメリカ人は35%にすぎないが、日本人は70%とかなり上回る。

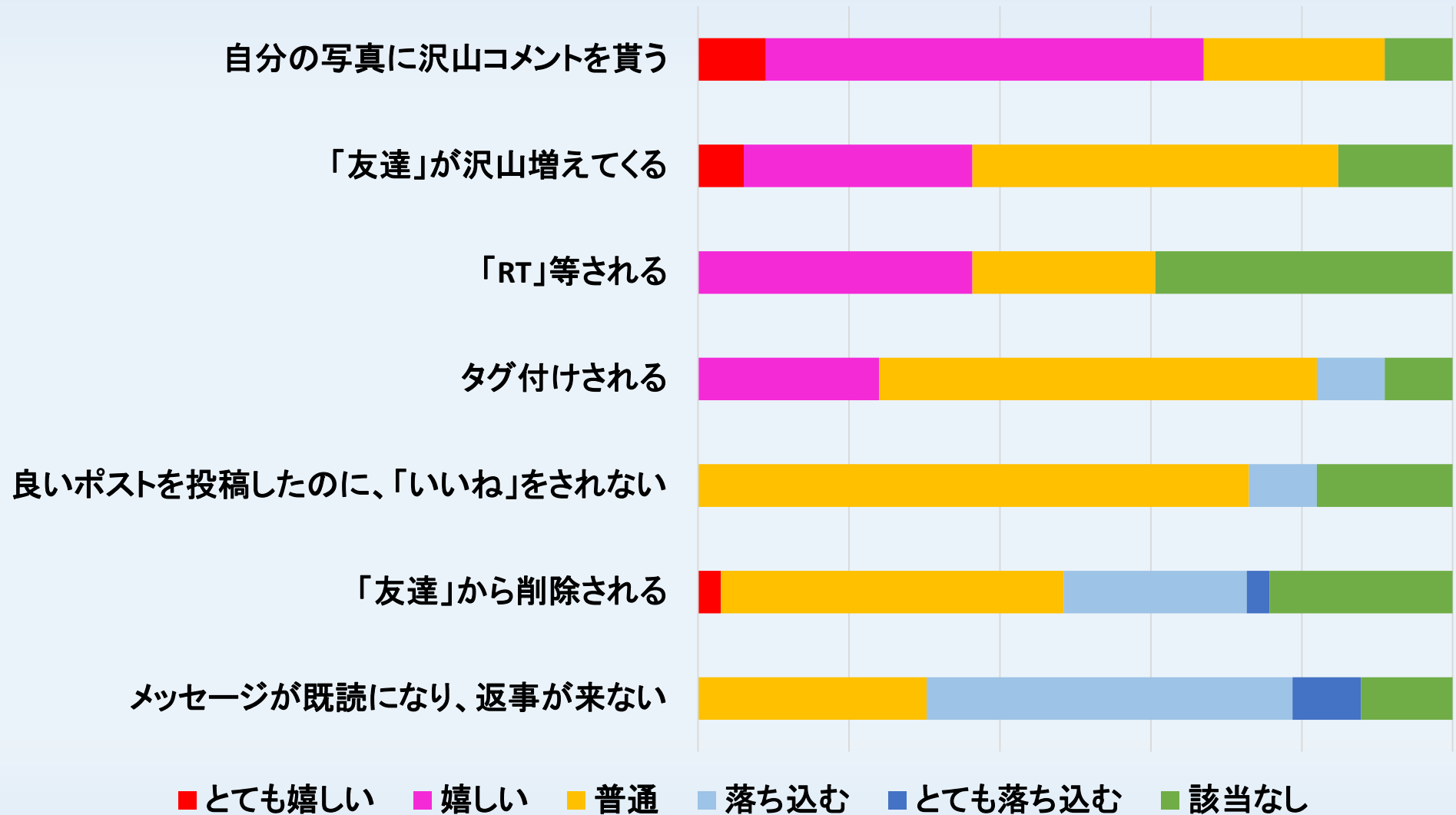
一日に平均するとどのぐらい以下のコミュニケーション方法を取るか。(30分以上)



日本人の大学生はSNSに長い時間を費やし、アメリカ人の大学生は携帯メールでのコミュニケーションに時間を取っていることを示している。

SNSで嬉しくなったり、落ち込んだりしますか？

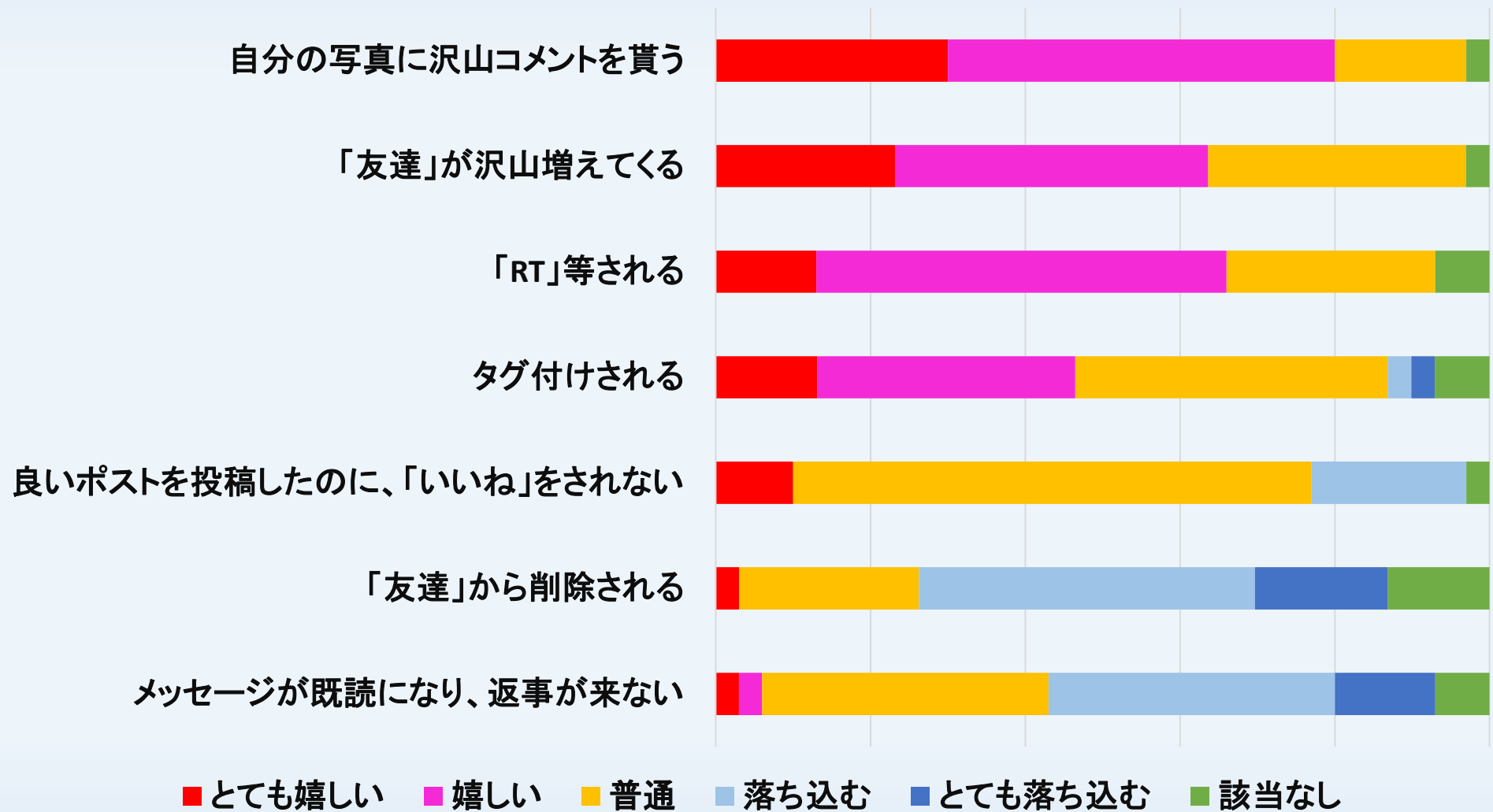
アメリカ人の大学生



「写真に沢山コメントを貰う」と「メッセージが既読になり、返事が来ない」という場面に対して感情的な反応はあるが、強い反応ではない。

SNSで嬉しくなったり、落ち込んだりしますか？

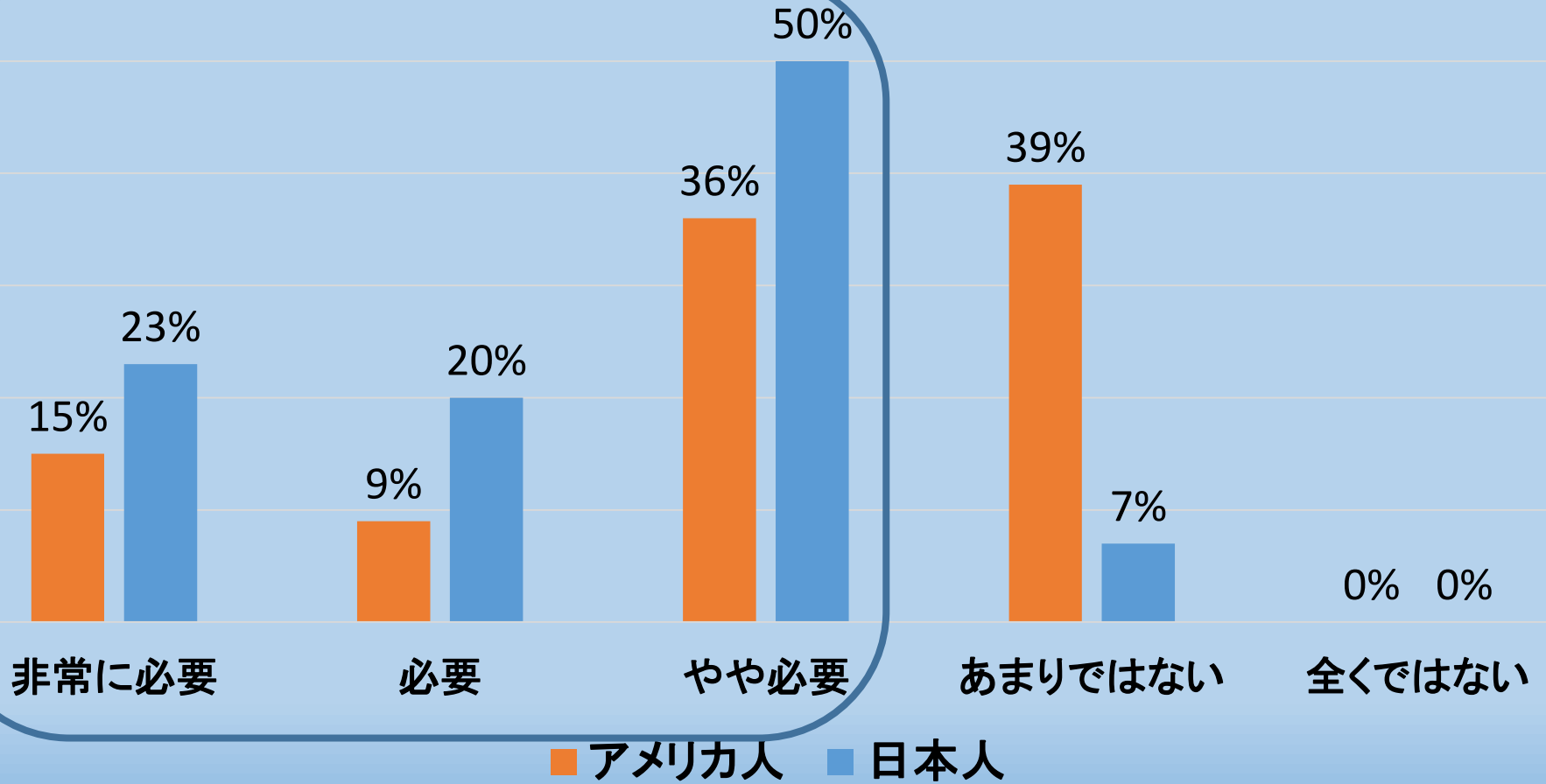
日本人の大学生



「良いポストを投稿したのに、『いいね』をされない」という場面以外は、一般的には日本人の方がアメリカ人より嬉しくなったり、落ち込んだりするというリアクションが多かった。

毎日の生活

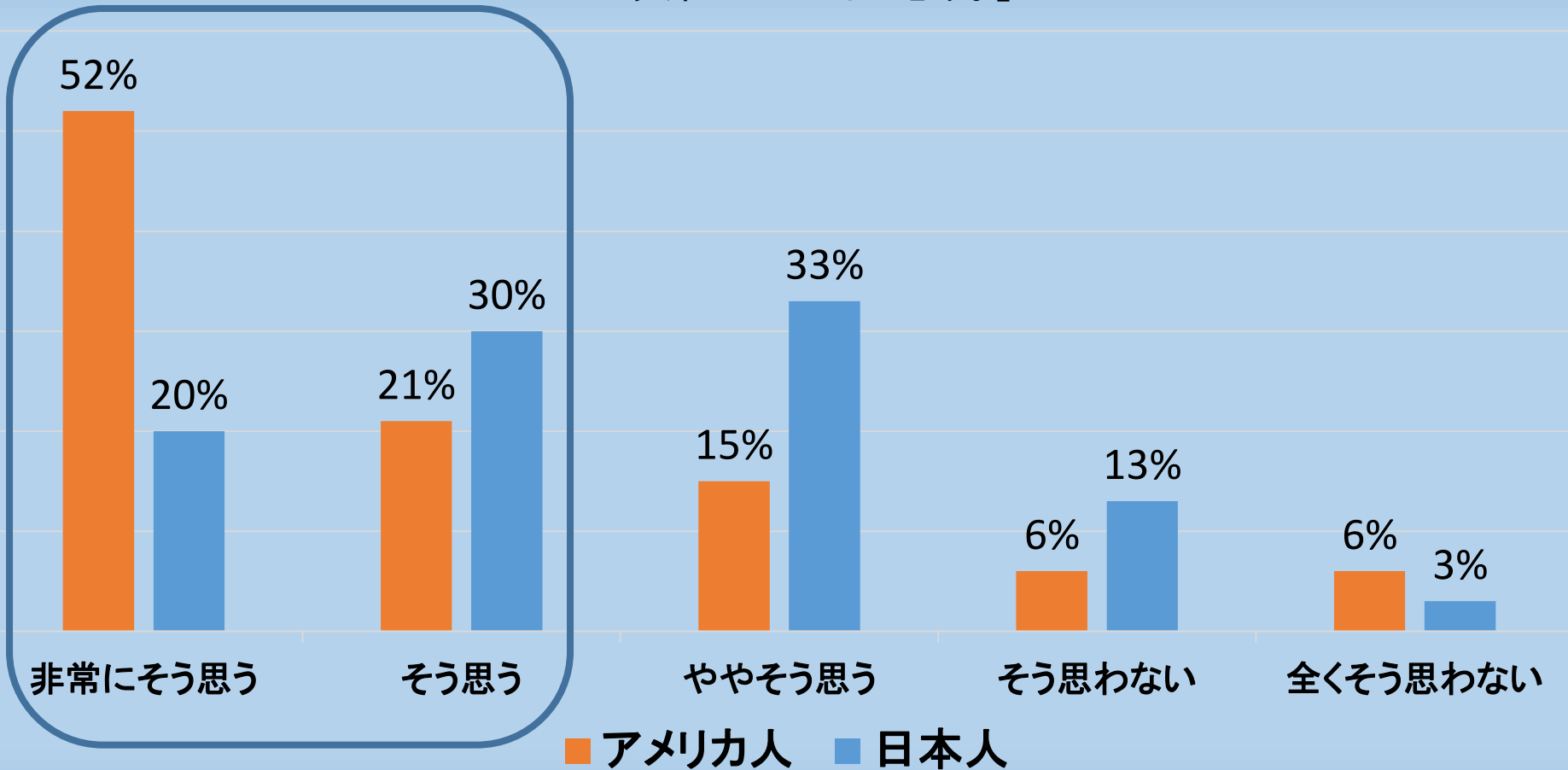
SNSは毎日の生活にどの程度必要だと思うか。



日本人の大学生の93%は最低でもSNSはある程度必要だと思っているようだが、アメリカ人は60%に留まっている。

SNSに頼りすぎること

「全体的に社会がSNSに頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が失われていると思う。」



SNSに頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が失われているということに対して「非常にそう思う」と「そう思う」と回答したアメリカ人は73%に上っているが、日本人は50%を下回っている。

研究結果1のまとめ

- 日本人の方がアメリカ人よりSNSの使用時間は長く、また、様々なことについて投稿頻度が高い。
- ソーシャルネットワークに関する出来事に対し、日本人の方がアメリカ人よりポジティブにせよネガティブにせよ反応をする。
- 両方のグループはSNSのある程度の必要性に賛成したが、アメリカ人の方がコミュニケーションの一部としてSNSに頼りすぎることにより、人とのコミュニケーション能力が次第に失われてくると強く感じていると言える。

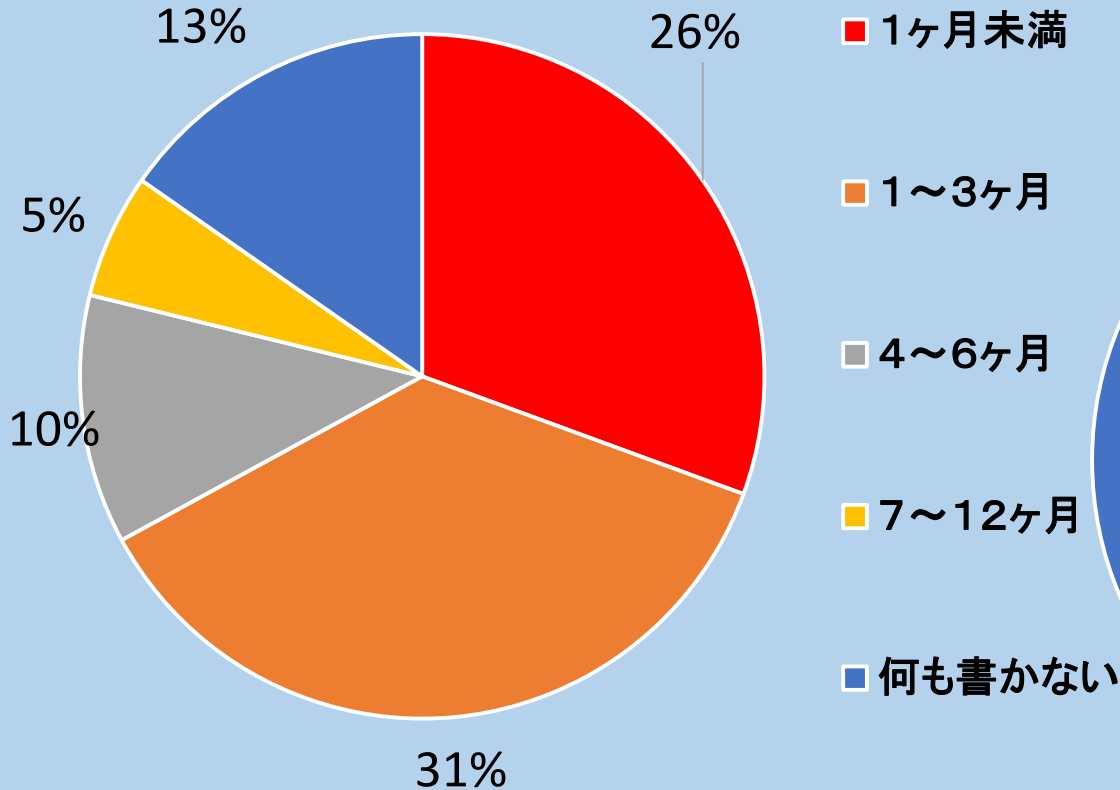
研究質問2

ソーシャルネットワークに投稿するにはどのような内容が適切なのか。また、それはなぜか。

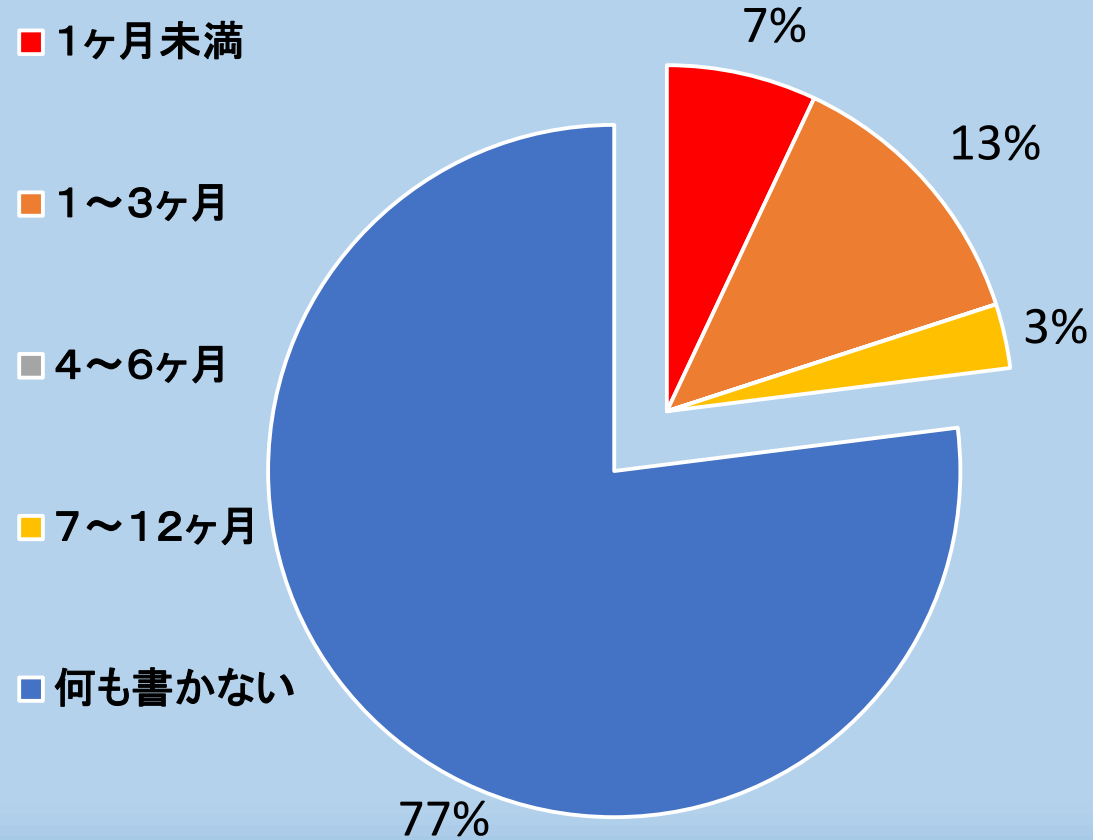
「交際ステータス」の変更

新しい恋人が出来たら、いつSNSの「交際ステータス」を変更するのが適切だと思うか。

アメリカ人



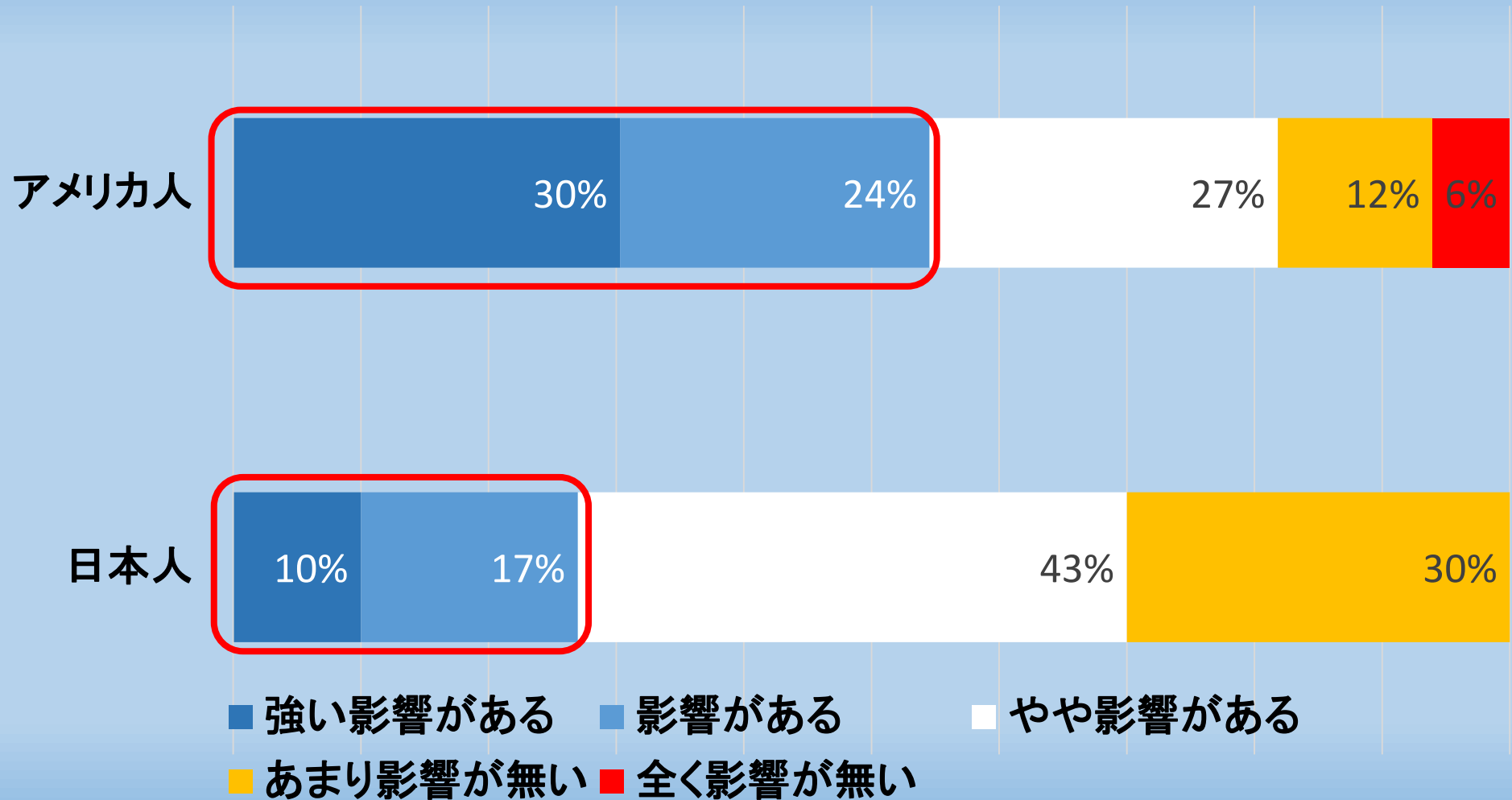
日本人



アメリカ人の大学生の半分以上の人(57%)は3ヶ月未満で「交際ステータス」を変更するのが適切だと思うことがわかる。一方で、日本人の大学生は「何も書かない」という回答が最も多い(77%)。

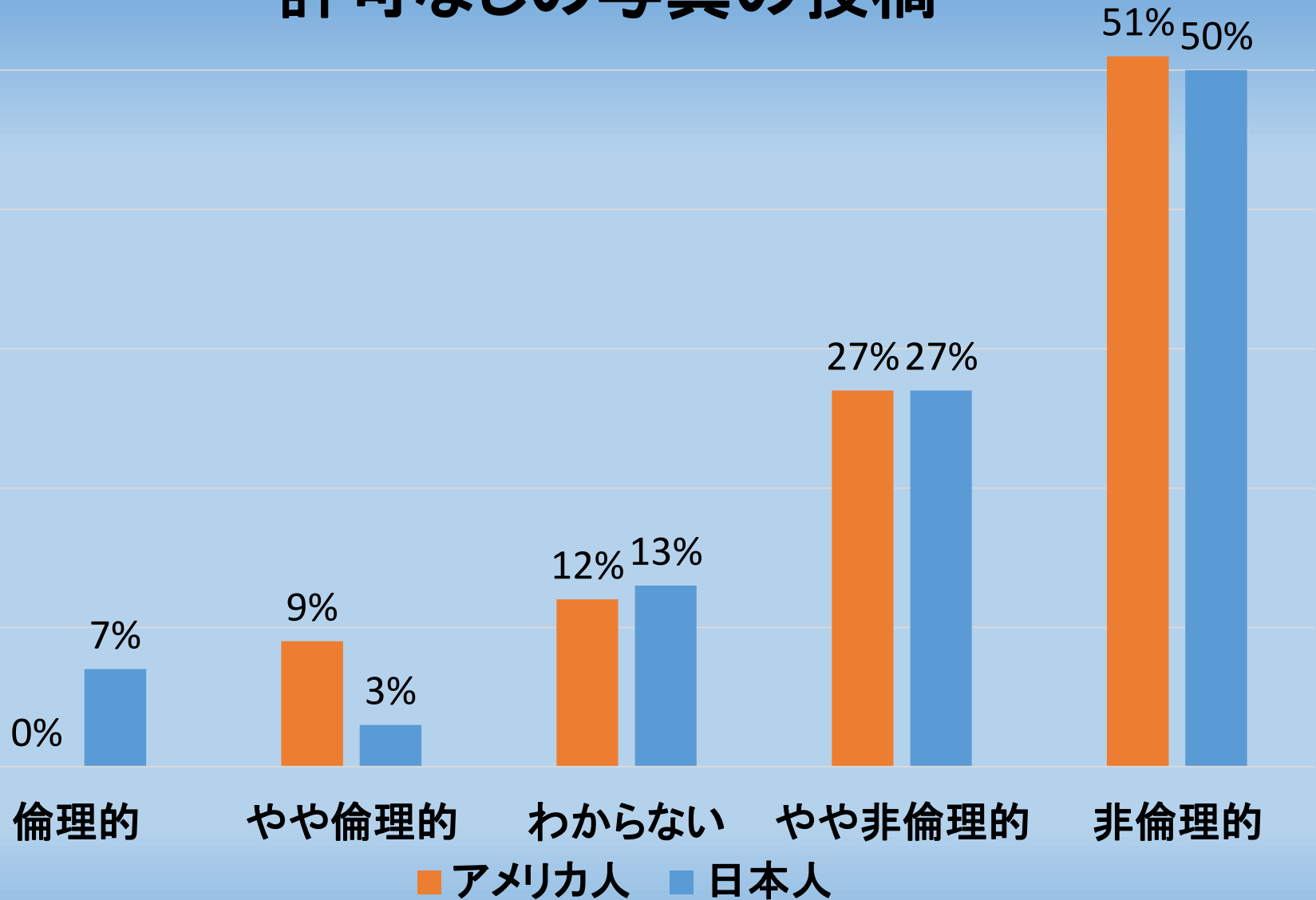
SNSの就職への影響

SNSに投稿する内容は就職に影響を与えると思うか。



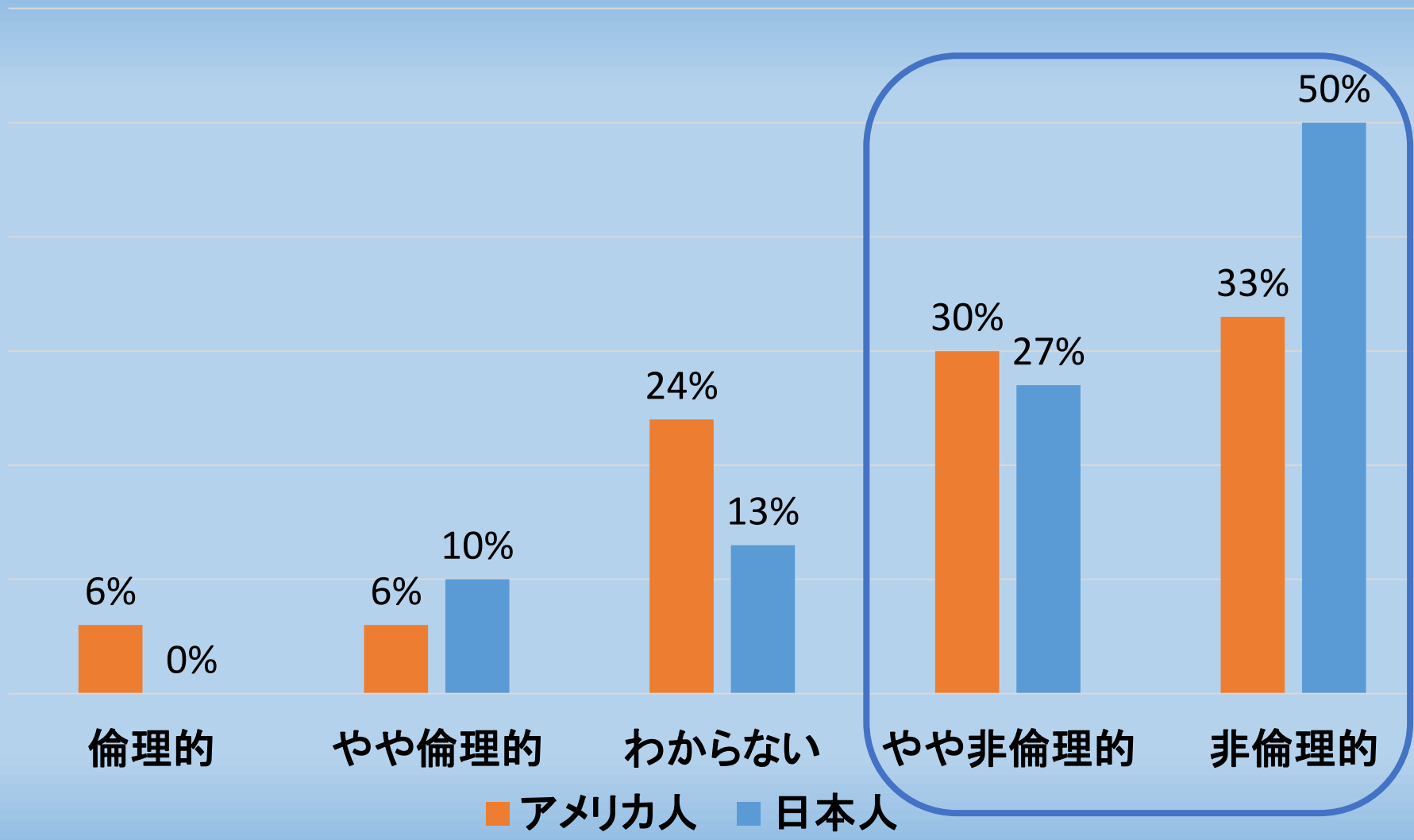
SNSに投稿する内容が就職に影響を与えると思う日本人は27%にすぎない。その反面、アメリカ人は日本人の2倍も(54%)影響があると思っている。

許可なしの写真の投稿



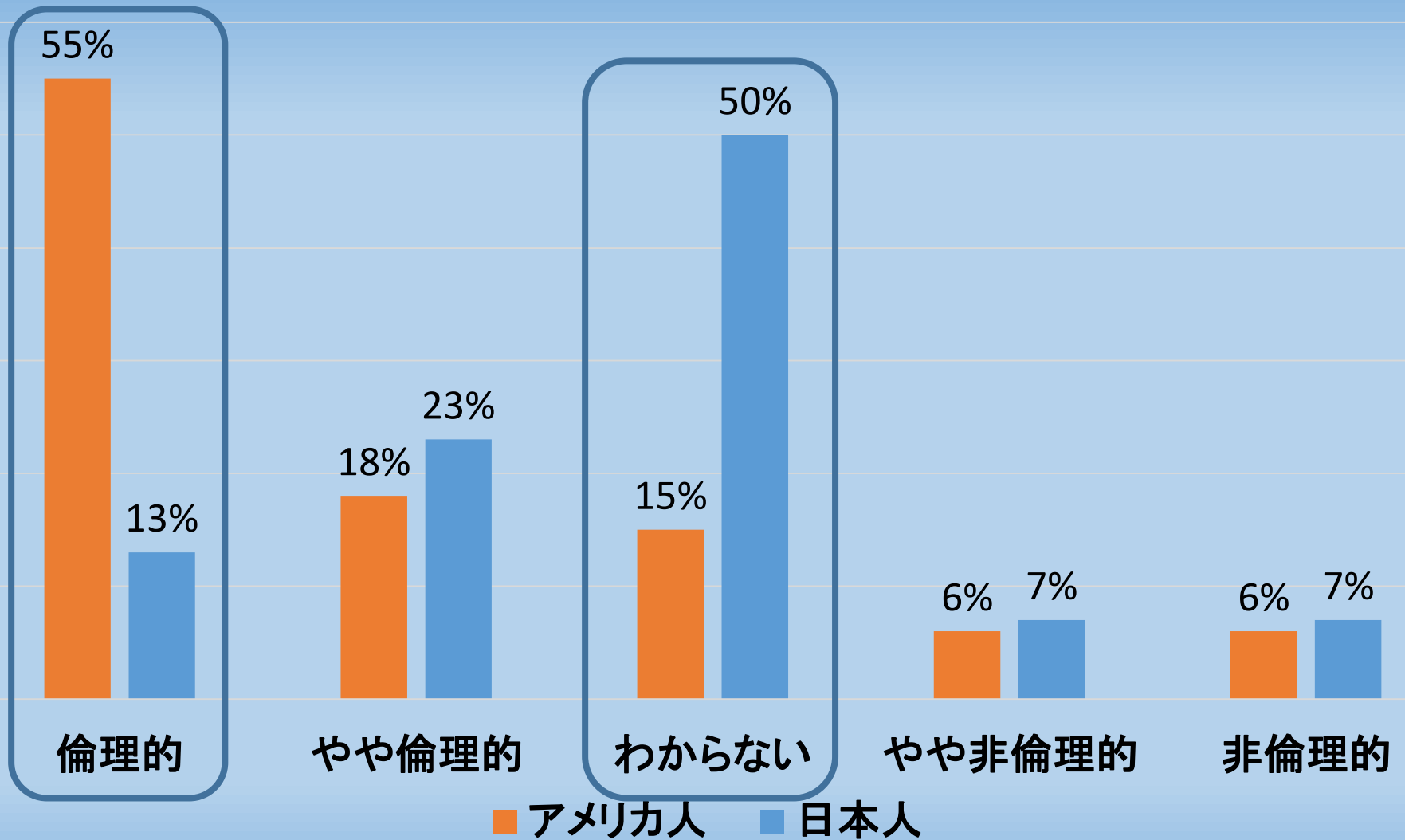
許可を貰わずに、他人が写っている写真をアップロードすることに対しては両方のグループが同じように非倫理的であるということに賛成している。

SNSを使って家族や友人への非難



日本人の大学生(77%)の方がアメリカ人の大学生(63%)より非倫理的だと述べている。

政治的抗議運動の撮影



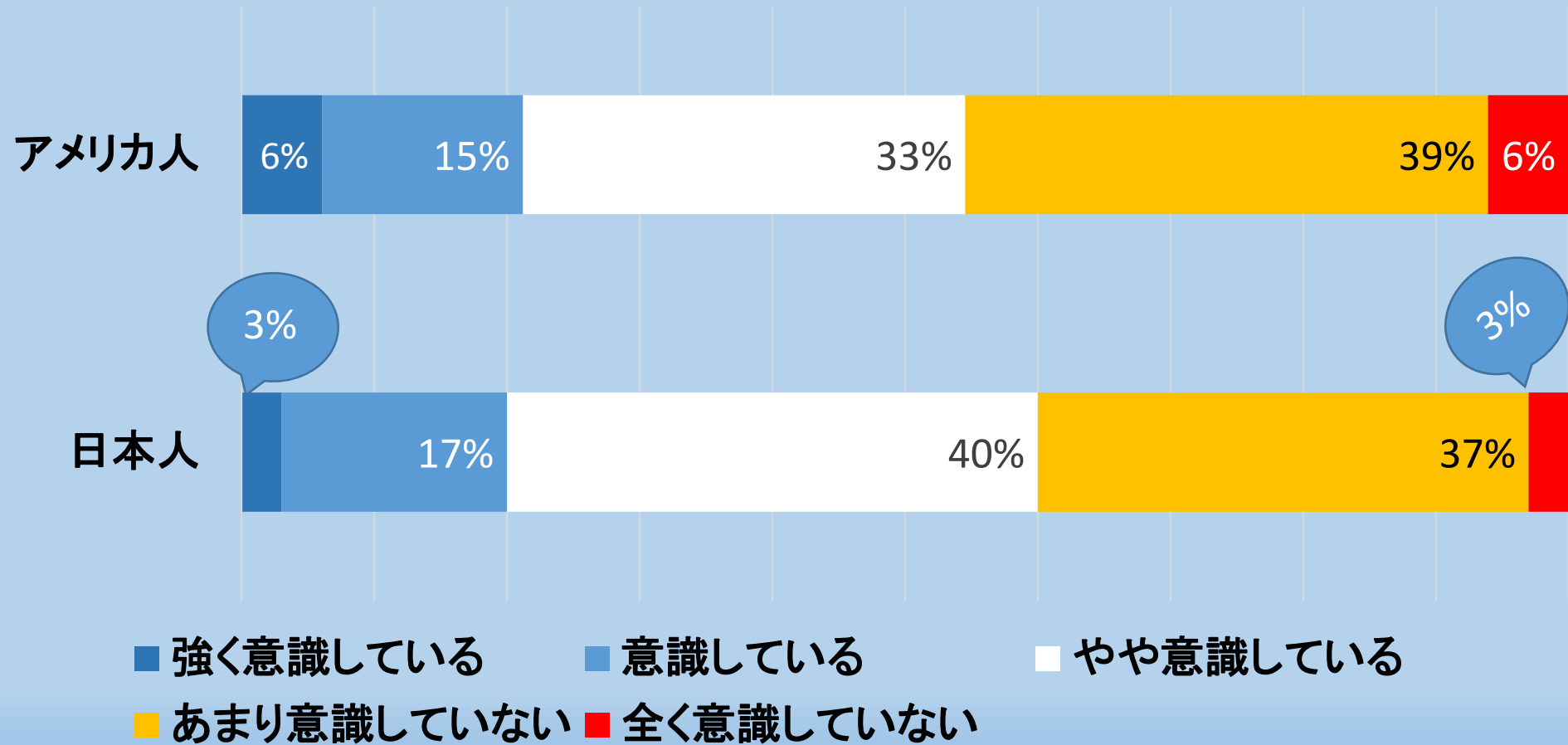
半分以上のアメリカ人はそのビデオをアップロードするのは倫理的だと答えた。(55%)
その半面、半分の日本人は意見を持っていなかった。

参加者の意見3

	倫理的 73% アメリカ人 36% 日本人	わからない 15% アメリカ人 50% 日本人	非倫理的 12% アメリカ人 14% 日本人
アメリカ人	<p>憲法を通しての権利/ 言論の自由 (10名)</p>	<p>「言論の自由だから。そして、騒ぎを起こさず、ただ意見を述べているだけなら、大丈夫だ。」 (4年生)</p>	<p>「両方の見解を適当に表していたら、大丈夫なはずだ。 でも、証拠なしに、自分の意見のみを述べることはいけない。」 (4年生)</p>
日本人	<p>「この場合、投稿した個人には国民として、言論する自由は十分にあり、投稿したとして、ある個人が社会的にダメージを受けるとも考えられ難い。よってこの状況は倫理的であると言えるだろう。」(3年生)</p>	<p>わからない/ 経験が無い (8名)</p>	<p>「その警察官の情報の流出になる。しかし警察官として、公務員として、やったことに責任を持たなくてはならないのは事実であるため。」(4年生)</p>

友人の意識

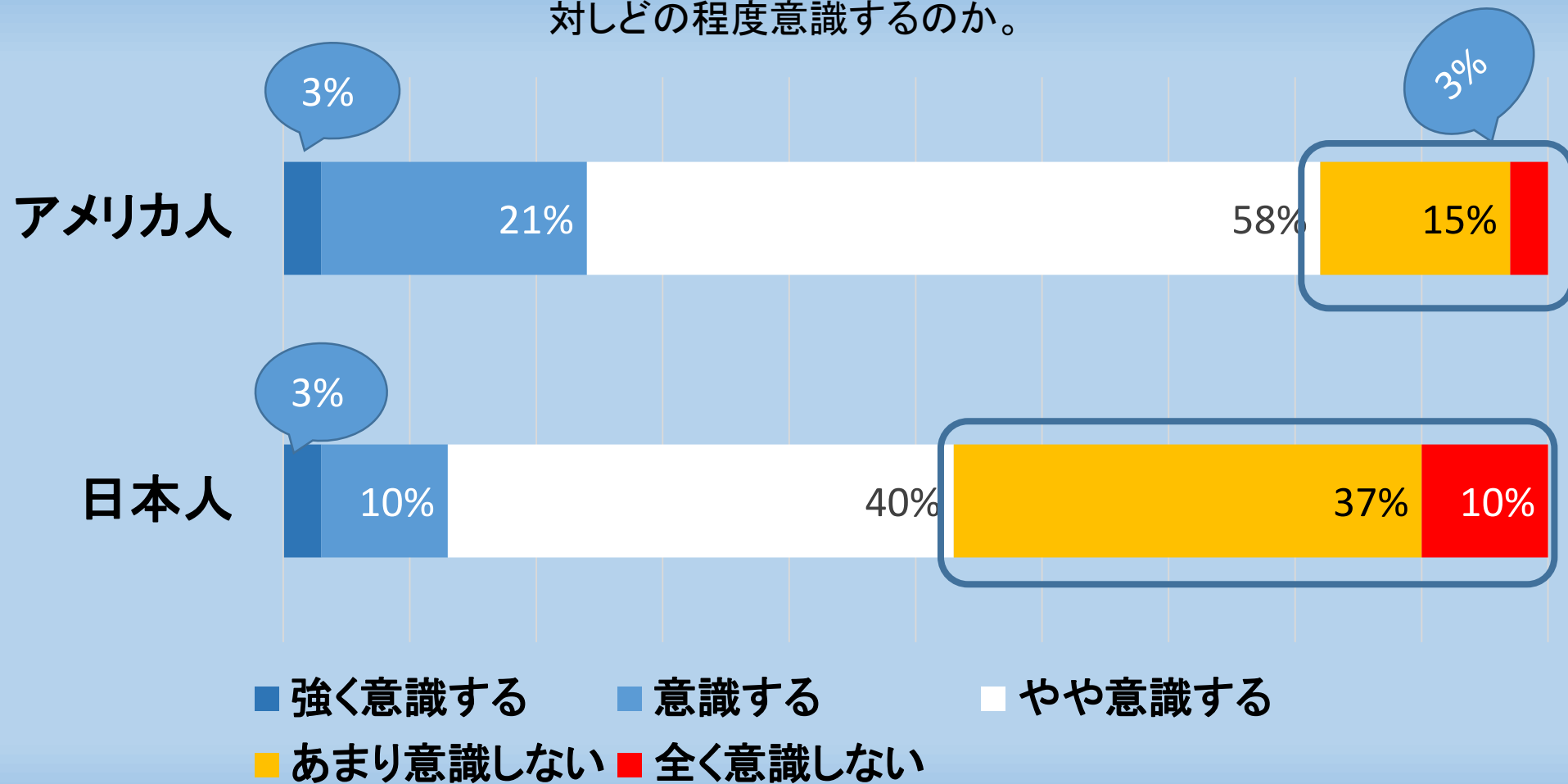
自分の友人がSNSに投稿する時、友人の周りの人の政治的・宗教的・個人的な見解に対しどの程度意識していると思うか。



日米の学生は共に友人が周囲を気遣いながら投稿していると感じている。

自分の意識

自分がSNSに投稿する時、自分の友人の政治的・宗教的・個人的な見解に対しどの程度意識するのか。



アメリカ人は周囲の見解に対して敏感であり、「あまり意識しない」と「全く意識しない」と回答した人は18%に留まる。一方で、ほぼ半分(47%)の日本人の回答者は他人の見解を意識していないと答えた。

研究結果2のまとめ

- アメリカ人の学生は圧倒的になるべく早くSNSに「交際ステータス」を変更するのが適切だと考えているが、ほとんど日本人の学生は「交際ステータス」を書くこと自体が適切ではないと考えている
- アメリカの方がSNSに投稿する内容が就職に影響を及ぼすと考えている
- 日米の大学生はともにSNSを通しての批判や写真の投稿に倫理性が必要だということに同意している。しかし、SNSで政治的な見解を表すことに対しては二分している。アメリカ人は、政治的な問題に関して投稿することは言論の自由の下に保障されていると考える傾向がある。一方で、日本人は政治に関して無関心である。
- 日本人の学生の方がSNSに投稿された友人の見解に対してあまり意識していない。

結論

- 日本人の学生の方がアメリカ人の学生よりSNSの必要性を感じている。従って、SNSにより長い時間を費やしたり、家族や友人とのコミュニケーションを取る手段として使っており、SNSの出来事に対して感情的なインパクトを強く感じている。この結果、日本人の学生のコミュニケーションの取り方の方がSNSにより強く影響を受けている。
- 日本人の学生の方がSNSの必要性を感じているのにもかかわらず、SNSに投稿する際、個人的、または仕事上のことにダメージを受けるおそれがあるということをあまり意識していない。
- 日米の大学生はともに評判を落としたり、障害を起こしうる主張や写真などを投稿するのは非倫理的なことと感じている。

考察

• 研究における限界点

- アンケートの参加者は大学生のみの為、得られた結果が限られたものである可能性がある。
- そして、倫理観に関する問題の種類が少なかった為、結果が詳細にわからなかった。

• 将来の研究課題

- 社会的な見解を理解する為にも、大学生だけではなく、世代が違う人たちにも参加してもらいたい。
- そして、大学生と社会人の意見を比較してみたい。

参考文献

- Barlett, C., Gentile, D., Anderson, C., Suzuki, K., Sakamoto, A., Yamaoka, A., & Katsura, R. (2014). Cross-Cultural Differences in Cyberbullying Behavior: A Short-Term Longitudinal Study. *Journal of Cross-Cultural Psychology, 45*(2), 300-313. Retrieved February 9, 2015, from Sage.
- Boyd, D., & Ellison, N. (2008). Social Network Sites: Definition, History, and Scholarship. *Journal of Computer-Mediated Communication, (13)*, 210-230. Retrieved March 9, 2015, from JSTOR.
- Dijck, J. (2013). Engineering Sociality in a Culture of Connectivity. In *The culture of connectivity: A critical history of social media* (pp. 3-18). New York, NY: Oxford University Press.
- Duggan, M., Ellison, N.B., Lampe, C., Lenhart, A., and Madden, M. "Social Media Update 2014," Pew Research Center, January 2015.
<http://www.pewinternet.org/2015/01/09/social-media-update-2014/>
- Hanna, R., Rohm, A., & Crittenden, V. (2011). We're all connected: The power of the social media ecosystem. *Business Horizons, 54*, 265-273. Retrieved March 27, 2015, from JSTOR.
- Hudson, R. (2011). *Review of social media and defence: Report by George Patterson Y & R.* Canberra, A.C.T.: Department of Defence.

参考文献

- Lin, K., & Lu, H. (2011). Why People Use Social Networking Sites: An Empirical Study Integrating Network Externalities And Motivation Theory. *Computers in Human Behavior*, 1152-1161. Retrieved February 11, 2015, from www.elsevier.com/locate/comphumbeh
- 平成25年 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査<速報>. (2014, April 1). Retrieved March 10, 2015, from <http://books.google.co.jp/books/about/情報通信メディアの利用時間.html?id=NRJbngEACAAJ>
- 三枝, 好, & 本間, 友. (2010). 「ネットいじめ」の実態とその分析 ---「従来型いじめ」との比較を通して---. *京都教育大学教育実践研究紀要*, (11), 179-186. Retrieved April 14, 2015, from Google Scholar.
- 長谷川, 聡, 安井, 明, & 山口, 宗. (2013). SNSの教育とソーシャルラーニング. *名古屋文理大学紀要*, 13, 51-58. Retrieved March 11, 2015, from Google Scholar.

メディアのリソース

<http://emuprssa.com/2012/05/26/a-forefather-of-social-media-andrew-weinreich-and-sixdegrees-com/>

[http://ja.wikipedia.org/wiki/LINE_\(%E3%82%A2%E3%83%97%E3%83%AA%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/LINE_(%E3%82%A2%E3%83%97%E3%83%AA%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%B3))

<http://www.merriam-webster.com/dictionary/social%20network>

<http://www.merriam-webster.com/dictionary/cyberbullying>

謝辞

- 齋藤佳子教授
- 関根繁子教授
- ガス・レナードさん
- 一ノ瀬美佳
- 水淵あおい、笹川めぐみ
- 桜美林大学の桜風エイサー